

山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告

令和4年度 展示テーマ

『追想』





## 山口県大学ML (Museum・Library) 連携事業報告 令和4年度 展示テーマ『追想』

### 事業の経緯と経過

令和4年度は、参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特色を活かした学術資料または研究成果の展示を開催するという従来の体制により、引き続き特別展を開催した。前年度同様、新型コロナウイルス感染症による「コロナ禍」の中、開催を辞退せざるを得ないと判断された館もあったが、12大学15館（下記「事業の実施体制」参照）での開催となった。

今年度の事業説明会はオンライン会議として開催し、事業内容については、

- ◎展示の共通テーマを『追想』とする
- ◎事業期間は10月から翌年1月までとし、各館1ヶ月以上展示を開催する
- ◎新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年開催していたスタンプラリー等は実施しない
- ◎来場者記念品としてミニ付箋セットを作製・配布するなどが決定された。

以降、各館の展示準備とともにポスター、チラシなどを作成し、広報物の配付による事業の周知などを行った。

令和4年10月、予定通り『山口県大学ML連携特別展』は開幕した。新型コロナウイルス感染拡大等の社会情勢に応じ、展示観覧者を学内者のみに制限する等の対応を行った館もあった中、会期中に計数された見学者数は約460名（図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難）であった。昨年度計数値560名と比較すると減少したものの、昨年度はイベント開催に伴い単館で300名の計上があったことを考えると、全体的に観覧者が増加したとみられるのではないだろうか。

次頁より、参加各館の展示内容の紹介と実施成果の報告を行う。

### 事業の実施体制

#### ・主催

山口県大学ML連携事業実行委員会事務局

- 事務代表 水津峰夫（山口大学学術基盤部学術基盤推進課 副課長）
- 事務担当 黒瀬仁昭（山口大学学術基盤部学術基盤推進課企画連携係）  
川上誠（山口大学学術基盤部学術基盤推進課企画連携係）

#### ・参加館

岩国短期大学付属図書館 宇部フロンティア大学附属図書館  
至誠館大学附属図書館 下関市立大学附属図書館  
下関短期大学図書館 周南公立大学図書館  
水産大学校図書館 東亜大学附属図書館  
梅光学院大学図書館 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館  
山口県立大学図書館 山口大学総合図書館  
山口大学医学部図書館 山口大学工学部図書館  
山口大学埋蔵文化財資料館

#### ・共催

大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会

#### ・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



展示広報用ポスター



山口県大学ML連携事業Web



## 岩国短期大学 附属図書館

『幼き頃に想いをよせて  
～懐かしい唄や遊び～』

住 所：〒740-0032 山口県岩国市尾津町2丁目24-18

電 話：0827-31-8141 (代)

e-mail：library@iwakuni.ac.jp

http://www.iwakuni.ac.jp/

●開催期間：10月17日(月)～12月23日(金)

### 【展示内容】

子ども達は様々な唄(歌)や遊びと共に育っていきます。今年度は、手遊び唄など懐かしく感じる唄や遊びに視点を向けた資料を展示いたしました。また、学生の授業での製作作品展示もご観覧いただきました。

### 【観覧者数】

約50名

### 【成果】

本学のML連携特別展を学内や学外に知っていただく良いきっかけは、大学祭の館内オープンであり、大学祭イベントの一つとして絵本の読み聞かせ会をしているので、その呼び込みと共に観覧者に館内での展示をゆっくりと見ていただけるのですが、今年度は、大学祭が縮小された形で行われたため学外者に関覧していただける大きな機会がありませんでした。しかし、授業の関連として学生には伝承遊びやわらべ歌の資料などに触れる機会を作ることが出来ました。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

コロナ禍の影響は薄らいでいくのかと期待をしているのですが、引き続き当展示会の広報に努めていきたいと思っております。本学のML連携特別展は、保育を学ぶ学生にとって直接学びになる内容でないと学生の興味を引き続けることは難しいと感じており、どのように内容を発展させていくかが課題です。



展示の様様



展示観覧風景



## 宇部フロンティア大学附属図書館

『追想  
～私らしい未来へのつながり～』

住 所：〒755-0805 宇部市文京台2-1-1

電 話：0836-38-0524

e-mail：tosho@frontier-u.jp

http://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-institution/a-library/

●開催期間：10月3日(月)～11月29日(火)

### 【展示内容】

本学(大学院・大学・短期大学部)では、「人間性の涵養と実学の重視」を建学精神に掲げ、看護・福祉・心理・食物栄養・保育の専門家を育成しています。平成25年から参加したML展示では、各分野の教育内容や演習風景、地域社会とのつながりを書籍や研究論文とともに紹介して参りました。本展示では、これまでの展示品の振り返りとともに、創設者香川昌子のゆかりの品を写真でご紹介致しました。時代が求める専門的知識・技術を学び活躍する未来を創造しながらご観覧いただきました。

### 【成果】

図書館利用が学内限定のため、観覧者は学内者のみになりました。学生協働の学生と職員と一緒に展示を作成することで、初期からのML連携事業を知らない在学生と過去の様子を展示物品や写真で振り返り、図書館活動の記録を共有することができました。本学で取得できる資格を学び、社会で活躍している人々の本の紹介コーナーにおいては、現在の学びが未来へつながることを意識していただくことができました。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

各専門分野の教職員にもご協力いただき、研究者と学生・一般の方がつながる場の提供となるよう、親しみやすく魅力ある展示テーマを設定し、展示のガイドツアーや対話型の解説、体験コーナーを設置するなどの参加型の展示にも挑戦したいです。



展示作成の様様



展示観覧風景



## 至誠館大学 附属図書館 『海外からみた松陰及び 明治維新の追想』

住 所：〒758-8585 山口県萩市椿東浦田 5000

電 話：0838-24-4081

e-mail：library@shiseikan.ac.jp

http://www.shiseikan.ac.jp/library/

●開催期間：12月1日（木）～2月28日（火）

### 【展示内容】

2018年5月に開設した吉田松陰研究所との共同展示を行いました。吉田松陰研究所は吉田松陰に関する調査及び研究を行い、その成果を提供することにより地域の発展に寄与することを目的とし、設立されました。

今回は「海外からみた松陰及び明治維新の追想」をテーマとし、英米の執筆者による松陰の下田事件に関する記述（山口県教育会編纂）、下関戦争及び長州藩関連記事が掲載された英仏発行の絵入り新聞（「小川コレクション」）等を展示しました。

### 【成果】

大学の所在地である、萩出身の吉田松陰について取り上げた展示を行いました。大学名にある「至誠」の由来である吉田松陰に関することについて、学生が興味をもつきっかけとなっていればと思います。

会期中、入館制限等は特にかけていませんでしたが、新型コロナウイルスの影響がまだあるためか学外からの観覧者がほとんどいなかったのが、残念でした。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

次年度は開催期間を大学祭にあわせ、地域の方に大学や図書館の活動や取り組みについて知っていただく機会にできればと思います。



展示の様様



展示観覧風景



## 下関市立大学 附属図書館 『写真から追想するくじらの街・下関』

住 所：〒751-8510 山口県下関市大学町 2-1-1

電 話：083-252-1211

e-mail：library@shimonoseki-cu.ac.jp

http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/library/

●開催期間：10月4日（火）～12月3日（土）

### 【展示内容】

下関市は近代捕鯨発祥の地として、また、戦前・戦後を通じ、かつての南水洋捕鯨基地として国内有数の地位を築いてきました。今回は『捕鯨船「第二十五利丸」進水式（昭和三十七年）』『鯨工船「日新丸」進水式（昭和二十六年、川崎重工業）』『彦島冷蔵庫製氷室（大正年間）』等、下関とくじらとの関わりについてのパネルを展示いたしました。くじらの街・下関を追想していただければ幸いです。

### 【観覧者数】

およそ30名

### 【成果】

コロナ禍で、図書館利用は学内者のみだったため、来場者数に影響がりましたが、本展示を鑑賞した方々からは、概ね良好な反応がありました。

そのなかで、「くじらの街・下関」を少なからず知っていただけたかと思えます。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

ML連携への参加期間も長くなってきているため、鑑賞する方々に新しい企画を提示することが難しくなっています。

また、コロナ禍での展示方法についても工夫していきたいと思えます。



展示の様様



展示の様様



## 下関短期大学 図書館 『しもんたんの追想と予想』

住 所：〒750-8508 山口県下関市桜山町 1-1

電 話：083-223-5340

e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp

<https://www.shimotan.jp/publics/index/51>

●開催期間：11月7日（月）～1月31日（火）

### 【展示内容】

2022年は下関短期大学開学60周年の年です。人なら“赤いちゃんちゃんこ”で祝う節目の年を迎え、本学では短大全体と栄養健康学科と保育学科の両学科それぞれの観点から今までの60年を振り返りこれからを展望しました。昔と変わったところ、昔と同じところ、これからも守りたいこと、これからに向け進歩したいことを展示しました。

### 【成果】

開学からの60年を振り返る展示だったため、本学の学生・教職員から「新しい発見があった」、「懐かしい」などの感想が寄せられ、11月にあったオープンキャンパスと学園祭への参加者も興味深そうに観覧していた。

栄養健康学科と保育学科、一般教育がそれぞれの歩みを振り返り、学修内容を可視化した展示にしたが、このことが互いの学科の学修内容の理解に繋がったことは予想外の成果だった。さらに、在学生の作品を展示した保育学科から、自分の作品が展示されたことで自信を得たとの声が挙がったことも予想外の成果だった。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

4月から展示に向け準備を始めたがやはり準備に時間がかかった。学科のスケジュールと教職員の負担などの実情に合わせてさらに計画的に進めたいと思う。



展示の様様



展示観覧風景



## 周南公立大学 図書館 『周南公立大学 誕生！！』

住 所：〒745-8566 山口県周南市学園台

電 話：0834-28-5394

e-mail：toshokan@shunan-u.ac.jp

<https://www.shunan-u.ac.jp>

●開催期間：10月29日（土）～12月28日（水）

### 【展示内容】

本学は4月より公立化をし、「公立大学法人周南公立大学」誕生の運びとなりました。今回の展示では、「周南公立大学」開学までの足跡を地元新聞の記事などによりたどっていきました。そのうえで、皆さまに現在から未来の本学について共に、感じ・考えていただける展示をいたしました。

### 【関連事業】

大学祭（10月29日）

### 【成果】

大学祭より展示を開始することにより、多くの一般の方へも周南公立大学誕生までの経緯を分かりやすく周知することができました。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

大学祭以外の開館日における展示目的の来館者増を目指したい。周知についての検討が必要です。



展示の様様



展示の様様



## 水産大学校 図書館

『追想 ～昔日の水産教育の情景～』

住 所：〒 759-6595 山口県下関市永田本町 2-7-1

電 話：083-286-5114

e-mail：nfulib@fish-u.ac.jp

http://library.fish-u.ac.jp

●開催期間：11月1日（火）～12月27日（火）

### 【展示内容】

水産大学校は、昭和16年に前身校が設立されて以来、水産教育に邁進し、水産業界に数多の人材を送り出してきました。過去を振り返り、現在を経て未来へ続く水産教育に思いを馳せて頂けるよう、本校の研究・教育施設やキャンパスの風景などの写真とともに関連資料の展示を行いました。今は無き田名臨海実験実習場での研究・教育の足跡も展示しました。

### 【観覧者数】

103名

### 【成果】

創立当時から現在までの本校キャンパス、校外実験実習場、練習船といった本校3大教育施設の変遷を年表と写真で紹介するとともに、これら水産教育施設の活用に伴って生み出された図書、論文誌、保管資料を来場者が気軽に手に取って閲覧できるように展示しました。また、「来場者が育てる展示」というコンセプトの下、来場者には、展示物中で“これは良い内容なので他の人も是非閲覧して欲しい”と感じた箇所があれば、そこにコメントを記入した付せんを貼っていただくようお願いしました。来場者が周囲の人に積極的に閲覧を勧めてくれるようになり、入場者の増加に効果的でした。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

今年度は、本校の新型コロナウイルス感染症対応の方針を鑑みて、校内関係者のみを対象とした展示としましたが、ML連携特別展本来の目的である地域への情報発信が大切だと考えられます。来年度は本館も外部からの利用者を受け入れ、ML連携特別展の展示も一般開放できるように動いていきたいと思ひます。



展示の様様



展示観覧風景



## 東亜大学 附属図書館

『追想の昭和  
～漫画に見る日本と下関～』

住 所：〒 751-8503 山口県下関市一の宮学園町 2-1

電 話：083-257-5111

e-mail：tosyo@toua-u.ac.jp

https://www.toua-u.ac.jp

●開催期間：11月1日（火）～1月31日（火）

### 【展示内容】

本展示は、昭和、とりわけ戦後1950年代・1960年代に活発な活動を展開した著名漫画家たちをはじめとする世代の活躍を背景に、下関地域における漫画創作活動に目を向け、関よみを中心とした漫画家たちの活動を位置付け、振り返る追想のマンガ展でした。それらの作品はどんな時代の中で生まれ、その活動は、どんなコンテキストに根ざすものだったのでしょうか。これらの作品や作家たちの人生を通じて「下関の昭和」が垣間見えてきたはずでず。

### 【観覧者数】

74名

### 【成果】

併設している「漫画図書館」の方々の多大なるご協力で想像以上に充実した展示ができたと思ひます。YAB「Jちゃん山口」、山口新聞、毎日新聞の取材を受け広域に亙り情宣できたことで、学外から来館する方も増えました。



展示の様様



展示観覧風景



梅光学院大学 図書館  
『災害を振り返り、  
防災について考えよう。』

住 所：〒750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1

電 話：083-227-1040

e-mail：library@baiko.ac.jp

http://www.baiko.ac.jp/university/library/

●開催期間：10月1日（土）～11月30日（水）

【展示内容】

日本各地で発生する災害被害の記憶を追憶し、防災について考えました。  
防災に関する書籍の展示と、梅光学院大学の防災への取り組みについてパネル展示を行い、身の回りの防災について知りました。防災グッズもあわせて展示することで、今から用意できる身近な防災を意識してみました。

【観覧者数】

6名（※アンケート回答枚数）

【関連事業】

本学総務部が実施した「防災研修」の様子のパネル展示と、本学が備蓄している非常食や防災グッズの展示を行いました。

【成果】

これまでに起こった災害についての認識を新たにすることができ、また、防災については知識を深める良い機会となりました。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

展示場所に職員が常駐できず、出入り自由の運用としており、また、展示場所と事務室が離れているため観覧者数の把握が難しかった。



展示の様様



展示の様様



山口学芸大学  
山口芸術短期大学 図書館  
『子ども時代の記憶～追想～』

住 所：〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町 1-7-1

電 話：083-972-2880

e-mail：akiyama@yamaguchi-jca.ac.jp

http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/library

●開催期間：10月25日（火）～12月23日（金）

【展示内容】

この度の展示では保育者が子どもたちに使用するパネルシアター、ペープサート、張り子人形などを展示しました。物を展示していますが、それらを演じてくれた人への記憶は見る人それぞれにあるのではないかと思います。

自分自身の人間形成に大きく関わった保育者、保護者、人のことを今一度思い出すことで懐かしい淡い時間となっていたいただければ幸いです。

【成果】

2年ぶりの開催、一般の方への公開では3年ぶりの開催となりました。

一般の方は大学祭での観覧がほとんどでしたが、小学生やご家族が興味をもった様子で観覧されている様子が見られました。

学生たちも同じ学生が作成した作品（児童文化財）や、初めて目にするレコード、プレイヤーに関心が湧いたようでした。

【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

コロナ下の数年間、来館を呼び掛けても良いものかと学内への広報も躊躇われたため、ML連携展を知らず展示を見ている学生たちも多かったように思います。

まずは学内での認知度を上げることを課題としたいと思います。



展示観覧風景



展示観覧風景





## 山口県立大学 図書館

### 『時を想う ～山口県立大学80年の歩み～』

住 所：〒 753-8502 山口県山口市桜島 3-2-1

電 話：083-928-0522

e-mail：lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp

https://www.ypu.jp/li/

●開催期間：11月1日（火）～1月30日（月）

#### 【展示内容】

山口県立大学は、昨年、創立80周年のメモリアルイヤーを迎えました。昭和16年の山口県立女子専門学校創立に始まり、山口女子短期大学、山口女子大学、そして平成8年、男女共学化により山口県立大学と改称されました。この変遷を当時の写真、教材、校章、卒業証書などの展示を通じて振り返り、80年という時の流れに想いを馳せました。

#### 【観覧者数】

32名

#### 【成果】

時代を懐かしく振り返る展示となりました。特に、裁縫道具などの当時の教材、卒業証書や卒業アルバムは本学の歴史を身近に示し、深い印象を残したとの声が聞かれました。80年という時の流れに思いを馳せる、という展示の目的は達成されたといえるのではないのでしょうか。また、自分達はこのような卒業証書がもらえるんだな、と言いながら観覧する在学生もあり、過去を振り返るだけでなく、未来を思い描く姿も見られました。

#### 【来年度山口県立大学ML連携事業に向けて】

アンケートによると、もっと詳しい解説が欲しかったという声がありました。「山口県立大学75周年記念誌」、「山口女子大学五〇年史」などの資料につなげられるよう、掲示や展示の仕方など工夫する必要性がありました。次年度は、この点について工夫したいです。



展示の様様



展示観覧風景



## 山口大学 総合図書館

### 『若月保治という人』

住 所：〒 753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5183

e-mail：toshokan@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/

●開催期間：11月1日（火）～1月31日（火）

#### 【展示内容】

山口大学図書館には、若月保治（紫蘭）旧蔵の資料約580点が所蔵されています。古浄瑠璃の研究者として知られる若月ですが、英学者、翻訳家、劇作家、演劇研究家、そして教師という実に多様な側面を持っていました。

若月の没後60年にあたり、その生涯を振り返るとともに、東京帝国大学在学時にラフカディオ・ハーンと夏目漱石の講義を受けた際の直筆ノートや『松平大和守日記』写本など貴重な資料を公開しました。

#### 【成果】

若月保治の足跡・功績を広く伝える機会となりました。アンケートでは興味をもった展示として「自筆の講義ノート」、「青い鳥」、「松平大和守日記」があげられており、若月の多様な側面が観覧者ごとに様々な印象を与えたようでした。

#### 【来年度山口県立大学ML連携事業に向けて】

展示の内容は興味深かったが、開催していることが認知されていないとの意見がありました。実際にアンケートでは6名中4名が、展示を知ったのは「たまたま前を通りかかった」からだと回答しています。展示内容に対しては良い意見が多かったため、今後はより多くの人に見てもらうための工夫が必要だと感じました。



展示の様様



展示観覧風景



## 山口大学 医学部図書館 『山口大学医学部を想う』

住 所：〒755-8505 宇部市南小串 1-1-1

電 話：0836-22-2142

e-mail：medlibsa@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/

●開催期間：11月1日（火）～1月31日（火）

### 【展示内容】

昭和39年に国立移管され、現在へと至る山口大学医学部。旧制山口県立医学専門学校に始まり、山口県立医科大学、そして山口大学医学部へと、その脈々と紡いできた歴史をご紹介します。併せて、山口大学医学部30年史などの展示物を展示いたしました。

### 【成果】

医学部の歴史をテーマとし、江戸時代から今日の医学部にいたるまでを紹介する展示を行いました。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、入館者は学内者のみでしたが、本学の学生・職員に広く観覧いただき、医学部発展の歴史を広報する機会となりました。

職員からは、宇部興産の渡辺剛二社長が関わっていることを知るいい機会となりましたと好評でした。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

学生さんはスマホを持っているので、アンケート用紙はQRコードでのWeb記入でもいいのかなと思いました。



展示の様様



展示観覧風景



## 山口大学 工学部図書館 『山口大学工学部を想う』

住 所：〒755-8611 宇部市常盤台 2-16-1

電 話：0836-85-9051

e-mail：infoserv@yamaguchi-u.ac.jp

http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/

●開催期間：11月1日（火）～1月31日（火）

### 【展示内容】

山口大学工学部は、1939年にその前身である宇部高等工業高校として誕生して以来、地域の知の拠点として発展を続け、2019年に創立80周年を迎えました。また、工学部図書館は、2021年7月に全面改修を経て、リニューアルオープンしました。

今回の展示では、工学部と工学部図書館の歴史を紹介しました。

### 【成果】

現在の工学部及び工学部図書館につながるこれまでの歩みや時代背景を紹介し、利用者に愛着や親しみを持ってもらう機会となりました。アンケートによると、地域固有資源である「桃色レンガ」に関心をもっていたことができ、産業史を伝える建築としての図書館の一面を知っていただくことができました。

### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

観覧者数が少ないため、ML連携特別展を開催していることをどのように認知していただくかが課題だと思いました。



展示観覧風景



展示観覧風景



## 山口大学 埋蔵文化財資料館

### 『山口大学追想 ～遺跡写真に見る昔と今～』

住 所：〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

電 話：083-933-5035

e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp

http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryokan.home/

●開催期間：10月31日（月）～1月31日（火）

#### 【展示内容】

山口大学が吉田キャンパスの遺跡調査を手がけて半世紀以上が経過しました。当館には、獲得した遺跡情報として、出土した遺物のほかに膨大な数の調査画像が収蔵されています。展示では、キャンパス各地の調査当時の画像とともに、出土した代表的な考古資料、そして現在の景観画像を公開しました。在学中の学生のほか、地域住民の方々、本学卒業生の方々に昔を懐かしんでいただくと同時に、本学各施設が「遺跡の記録保存」と呼ばれる破壊行為の上に成立していることを実感していただけたと思います。

#### 【観覧者数】

170名（学生113名、教職員2名、学外者55名）

#### 【成果】

今回の展示は、令和4年度の夏に実施した過去の調査フィルムのデジタルアーカイブ作業の副産物であり、主に昭和40年代の調査写真と現状の風景写真を対比して公開しました。

当初は10月29日（土）に開催されるホームカミングデー（卒業生や地域の方を大学に歓待するイベント）にあわせオープンさせ、当時在学した方々に観覧いただくことを目的としましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため学外者の来場が禁止となったことから、オープンを2日遅らせることになりました。展示の大きな目的が、展示開始時点で失われたと言えます。

新型コロナウイルス感染症対策のため、学外広報を控え、同時入室人数の制限などを設けたことから、入館者は伸び悩みましたが、事務局から配布されたオリジナル付箋をアンケート記入者に限定してプレゼントしたところ、44枚ものアンケートが回収できました。回収率25%越えは当館が展示活動を開始して以来、おそらく初の出来事であり、今回の取り組みに一定の成果があったと考えています。

#### 【来年度山口県大学ML連携事業に向けて】

感染症5類引き下げ後の入館者対応。

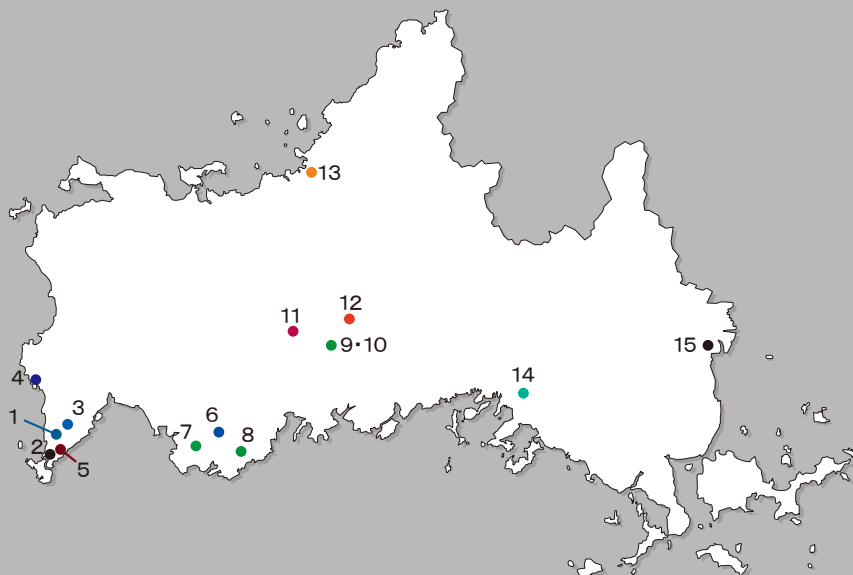
事業全体としては連携展バスツアー実施の可否。



展示の様様



展示観覧風景



#### 【下関地区】

1. 下関市立大学附属図書館 2. 下関短期大学図書館 3. 東亜大学附属図書館  
4. 水産大学校図書館 5. 梅光学院大学図書館

#### 【宇部地区】

6. 宇部フロンティア大学附属図書館 7. 山口大学医学部図書館 8. 山口大学工学部図書館

#### 【山口・萩以東地区】

9. 山口大学総合図書館 10. 山口大学埋蔵文化財資料館  
11. 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館 12. 山口県立大学図書館  
13. 至誠館大学附属図書館 14. 周南公立大学図書館 15. 岩国短期大学附属図書館

# Musee & Ann



山口県大学ML (Museum・Library) 連携特別展  
令和4年度 共通展示テーマ『追想』  
山口県大学ML連携事業Web  
<http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集・発行】  
山口県大学ML連携事業実行委員会  
事務局  
〒753-8511 山口市吉田 1677-1  
電話: 083-933-5192  
e-mail: li322@yamaguchi-u.ac.jp

【主催】 山口県大学ML連携事業実行委員会事務局  
【共催】 大学リーグやまぐち 山口県大学図書館協議会  
【後援】 山口県博物館協会 大学博物館等協議会  
山口県図書館協会